

少しずつ狭くなる指の幅 第3と第4の中間ポジション

・第3と第4の中間ポジション

D、A、E各線の音列はG、D、A各線のハーフポジションと同じです。

ハーフポジションは、一番初めに覚えるポジションですが、弦を押さえる指の幅が広いということが難しきでした。

それからポジションがひとつ、またひとつと進んでくると、音が高くなるにつれて音と音の幅は少しずつ狭くなっていきます。

特に注意したいのが2の指と4の指の間隔。

1の指と2の指に対し、2の指と4の指の間隔はかなり狭くなってくるので音の並びを覚える際に注意して練習してくださいね。

今回も「ダブルシャープ」が登場します。

ダブルシャープは楽譜に「x」という記号で書かれることをもう一度、覚えておきましょう。

#で半音上げた音をさらに半音上げてくださいね、という意味があり（重要記号）とも呼ばれます。

たとえば「ファ」の音にシャープ（#）が付けば半音上がり「ファ#」の音になります。

そして、ダブルシャープ（x）がつけば、さらに半音上がり「ソ」と同じ音になります。

吹奏楽作品の中にもたまに顔を出す記号ですなので、覚えておくと役に立ちます。

G線を使った第3と第4の中間ポジションの音列

または

第3と第4の中間ポジション 各弦の音

メトロノームと合わせて各弦の音を覚えよう！

はじめはゆっくりから、弓を全部使って、または音符の長さに合わせた配分で練習します。

弓と弦は直角に、左手の形は開放弦を弾いているときも弦の上でキープしておきましょう。

♩ = 44 ~